



## 平成 29 年度 海洋水産資源開発事業 〈底びき網（かけまわし）：日本海北部海域〉の調査結果概要



調査船：第二十三茂浦丸（35 トン）  
調査期間：平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月  
調査海域：日本海北部海域（秋田県沖合海域）

### 本調査の目的

秋田県沖合海域で操業するかけまわし漁法の底びき網漁業をモデルに、労働環境の改善や生産性の向上を目指した取り組みとして、ドロやクモヒトデ類等の不要物の入網回避、さらには小型個体の混獲防止等を目指した既存漁具を改良する調査を行う。

### 本年度調査の主な結果等

当該地域で使用されている従来漁具を基本に、不要物の入網を低減しつつ、漁獲対象魚種の入網減少を可能な限り抑制させるため改良を加えた漁具（改良漁具）の開発を行った。従来漁具に加えた改良項目は、①袖網大目化（8 節→3 寸）、②吊り岩の装着、③ドロ抜きを採用、④コッドエンド手前の排出口の設置である（図 1）。

試験操業を行った結果（図 2）、改良漁具を用いることにより、不要物の入網重量が従来漁具よりも少なくなる傾向が見られた。また、吊り岩による不要物の入網抑制効果が顕著であり、次いで、袖網大目化の効果が多少見られた。ドロ抜きおよび排出口については明確な効果が得られなかった。

次に、漁獲対象種への改良漁具の影響を見ると、マダラやハタハタ等の比較的遊泳能力の高い魚類やかれい類に関しては、改良漁具による入網個体数の減少はほぼ見られなかった。一方、トヤマエビやホッコクアカエビ等のえび類に関しては、袖網大目化の影響により入網する個体数が大きく減少することが判明した（図 3）。袖網大目化以外の改良項目の影響はほとんどなかった。

今後の調査では、本年度調査の結果を踏まえた形で従来漁具の再改良を実施して、更なる不要物の排出効果の向上を目指すとともに、えび類の入網率の回復を目指すこととする。

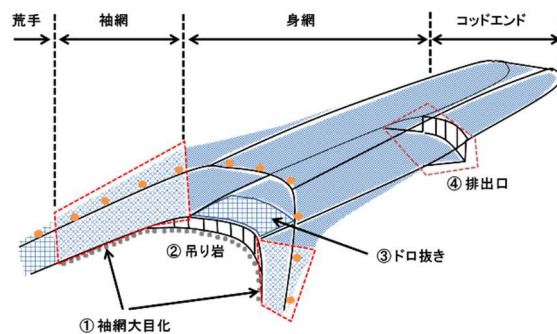


図 1 改良漁具の概略

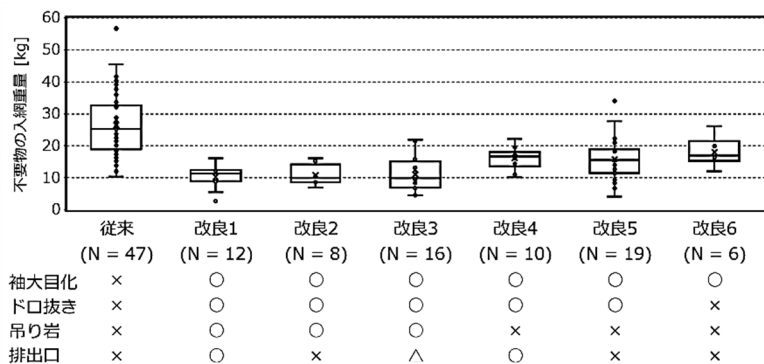


図 2 各漁具仕様における不要物の入網重量

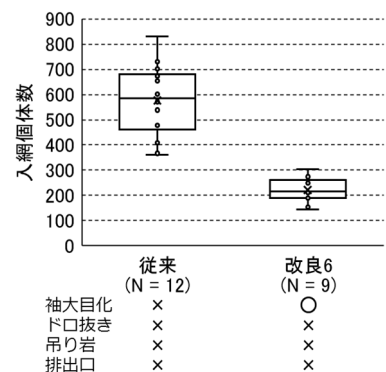


図 3 えび類の入網個体数